

自ら**学ぶ力**をはぐくむ
豊かな**心**をはぐくむ
健康な**体**をはぐくむ
郷土**愛**をはぐくむ

R3 県北プライド



◆自己肯定感・他者肯定感・郷土愛・協働する力の育成を目指して◆

校長 阿部 央

部活動をとおして

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、顧問教師と生徒は昨年度から様々な制限の中で部活動に取り組んでいます。また、練習試合の中止や各種大会の無観客開催が続いている状況から、生徒たちが活躍する姿を保護者の皆さまにご覧いただく機会がなく、残念に思っております。

生徒は部活動をとおして様々な壁に直面し乗り越えながら、少しずつ競技力を高め、自主性や社会性を身に付けていきます。また、自己肯定感、責任感、連帯感なども育っていきます。

過日行われた伊達支部中体連新人大会での生徒の姿を見ると、入学間もない頃のいかにも自信なさげな動きや表情から変化し、たくましさを感じる場面を数多く見ることができました。

生徒は着実に成長しています。部活動をとおした生徒の成長は顧問教師の指導あってのことです。正規の勤務時間を大きく超えて、さらには休日出勤してまで生徒たちに関わってくれています。ある意味自分の家庭を犠牲にしたものでもあり、校長として、申し訳ない気持ちと感謝の気持ちが複雑に絡み合っています。

部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであるはずが、少年非行や校内暴力が多発した1980年代には、非行防止の手段として部活動を扱うことの是非が議論となるなど、部活動への教師の関わりが全面的なものとなってきた経緯があります。

本校においては、部活動は原則として全員加入することとなっておりますが、全ての生徒が本当にやりたいと考えている部が設置されているわけではありませんし、設置は不可能なのが現実です。それを考えると生徒の自由な時間を部活動が奪ってしまっているのではないかと考えます。

今後、部活動の在り方に関して検討して参りたいと考えております。

